東風
さいたま市立与野東中学校 学校だより
No.５　令和６年８月２８日発行

「意識を変える」 - パンダからトラへ -

校長　　舘岡　靖哲

この夏も記録的な酷暑となり、熱中症に加えて感染症の再拡大等、心配事が尽きない日々が続きました。本校では、保護者や地域の皆さまのご協力により、生徒に係わる大きな事故やトラブルもなく、無事に２学期を迎えることができております。この場を借りて感謝申し上げます。

夏季休業中も本校生徒の活躍が目立ちました。部活動の団体種目では野球部が県大会準優勝、関東大会準優勝、全国大会出場を果たしました。また、男子バレー部、男子ソフトテニス部、体操部、女子剣道部も県大会出場、個人種目では陸上の女子砲丸投と１１０ｍハードルで県大会入賞、水泳の男子背泳ぎは上位入賞して全国大会出場、男子平泳ぎと男子のリレーも関東大会出場等、輝かしい成績をあげてくれました。今後の更なる活躍が楽しみです。また、本校が推進している地域における生徒の活動（ボランティア活動）においては、延べ５０人の生徒が公民館主催のボランティア活動や各自治会の活動等に参加してくれました。生徒の地域での活動に様々な方から感謝の声が届けられました。

さて、今年の夏はパリオリンピック・パラリンピックが大いに盛り上がりました。私にとって、オリンピックに出場した選手たちの発言やオリンピックに出場するまでのエピソード等を聞くことが楽しみの一つです。様々な苦労を重ね、厳しい練習にも耐えてきた選手や監督、選手を支えてきた方々の発する言葉には重みがあり、時には何とも言えない感動を生むこともあります。例えば、フェンシング女子初のメダルを獲得した日本チームのコーチに係るエピソードです。

日本フェンシング協会の登録者数は、２０２２年度で６４００人（サッカー３０９万人、野球２６８万人）しかいない。そのフェンシングで、女子初のメダルはフランス人コーチ（フランク・ボアダン）の一言から始まった。「君たちはどう呼ばれているか知っているか？　『パンダ』と呼ばれている。かわいらしい集団だってね」 母国フランス代表のコーチも務めていた経験から、対戦国から見た女子日本代表は「怖くない」。競っていても最後には勝てる。闘争心、アグレッシブさに欠けていた。コーチは言う。「多くの選手が間違ったビジョンを持っていた。『外国人選手が強すぎる』『勝つのは難しい』まずは、その意識から変えていこうと選手に話した。

そういえば、スポーツ以外でも、意識や考え方を変えたことで良い結果を得ることができたという事例はよく耳にします。本校で夏季休業中に実施した全校三者面談においても、「私は〇〇が不得意で、どうせ努力しても成果は出ない」「一生懸命やっても〇〇には勝てない」等の相談が出てきました。中学校生活では様々な壁に直面します。生徒の皆さんも、意識（特に苦手意識）や考え方を変えていくことで、その壁を乗り越える第一歩に繋がるかもしれませんね。

最後に報告です。昨年に引き続き、本校の生徒用昇降口にツバメが巣をつくり、６月下旬にヒナ４羽が巣立っていきました。さらに７月下旬に新たなヒナが３羽誕生し、こちらも元気に巣立っていきました。１年に２度もツバメが子育てをする。本校はよほど居心地が良いのでしょう。